第２章　史跡篠山城跡の周辺環境

１．自然環境

（1）位置

史跡篠山城跡の所在する篠山市は、兵庫県中東部、中国山地の東端に位置し、京阪神地域から 50km 圏内である。

平成 11 年(1999)4 月 1 日に多紀郡 4 町（篠山町、西紀町、丹南町、今田町）が合併して、現在の篠山市となり、東西約 30km、南北約 20km、市の面積は 377.61 ㎢を有する。市域北部には多紀連山、市域南部には深山山地が連なり、これらの標高 400～800mの山地及び丘陵地に囲まれ、市域中心部には標高約 200mの篠山盆地が位置している。

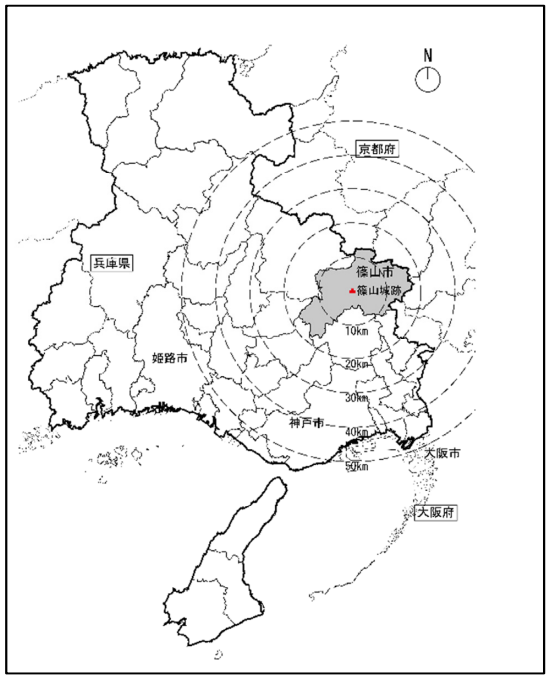


図 2-1　位置図

（2）気象

篠山盆地は内陸丹波山地型気候に該当する。市域の気候は、６月の梅雨時期と９月の台風シーズンに降水量が多く、冬に湿度が高く気温が低い。篠山盆地の標高は約 200mで、周囲を高い山地でさえぎられていることから、気温の年格差が大きく風は弱い。田園と緑地が拡がる環境で、夏場の熱帯夜は年に 1～２回で、夜は過ごしやすい。また放射冷却現象により霧が発生し、冬季の冷え込みや凍結が強いことは内陸的な特徴である。

平成 24～28 年度の年間降水量は 1500 ㎜～1700 ㎜で梅雨と台風時期の雨が多く、夏期の降水量が少なくなることが特徴で、この気候が篠山市の黒豆や山の芋などの農産物を育んでいる。

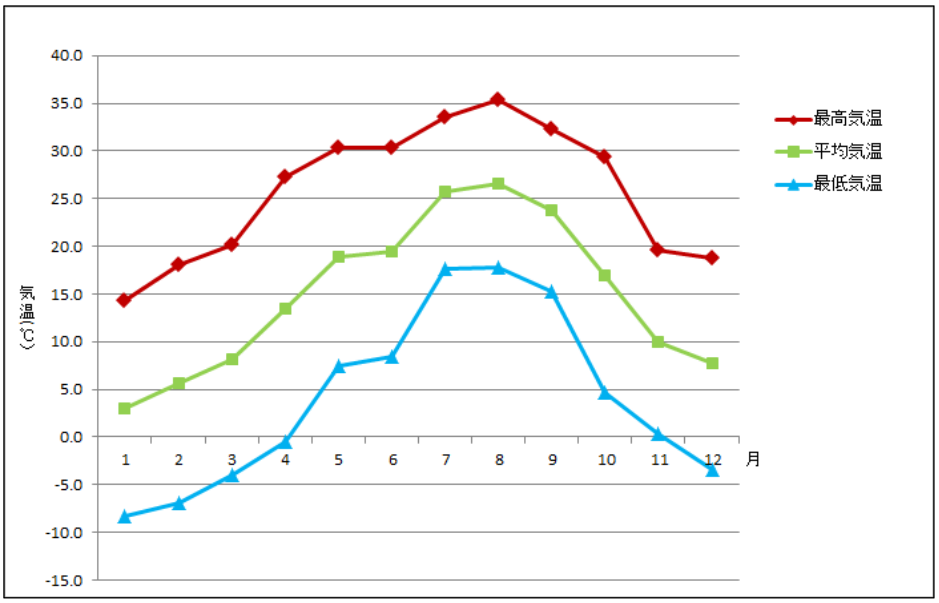


図 2-2　篠山市の月別気温　（平成 29 年篠山市統計　気象データより）

（3）地形・地質・水系

篠山城跡の位置する篠山地区は、篠山盆地のほぼ中央に位置し、北から南へ緩やかに傾斜しており、ほぼ平坦な地形を呈する。篠山城は小丘の笹山を取り入れて築城された平山城で、東には王地山、西には権現山(飛ノ山)などの独立丘がある。これらの篠山盆地に散在する孤立丘陵と盆地周縁部の丘陵は、中生代白亜紀に生成された礫に富んだ凝灰質が多い篠山層群から成っており、笹山も極めて堅固な地質である。

篠山城跡の南側には篠山川が西流し東側には黒岡川が南流している。これらは城下町の整備の際に、王地山の南麓を流れていた篠山川を南方に付け替え、黒岡川も城の南東で直角に屈曲させて城の南側を西流するように付け替えて自然の要害としての機能を持たせたものである。

篠山城下町は広がりのある農地の中に、篠山城を中心として形成された。かつては、篠山城、武家町、商家町というコンパクトな都市構造を有していたが、高度成長期以降に開発が進行し、城下町の縁辺部に宅地ができた。そのため、かつての城下町と農地との明確な境界は薄れてきている。

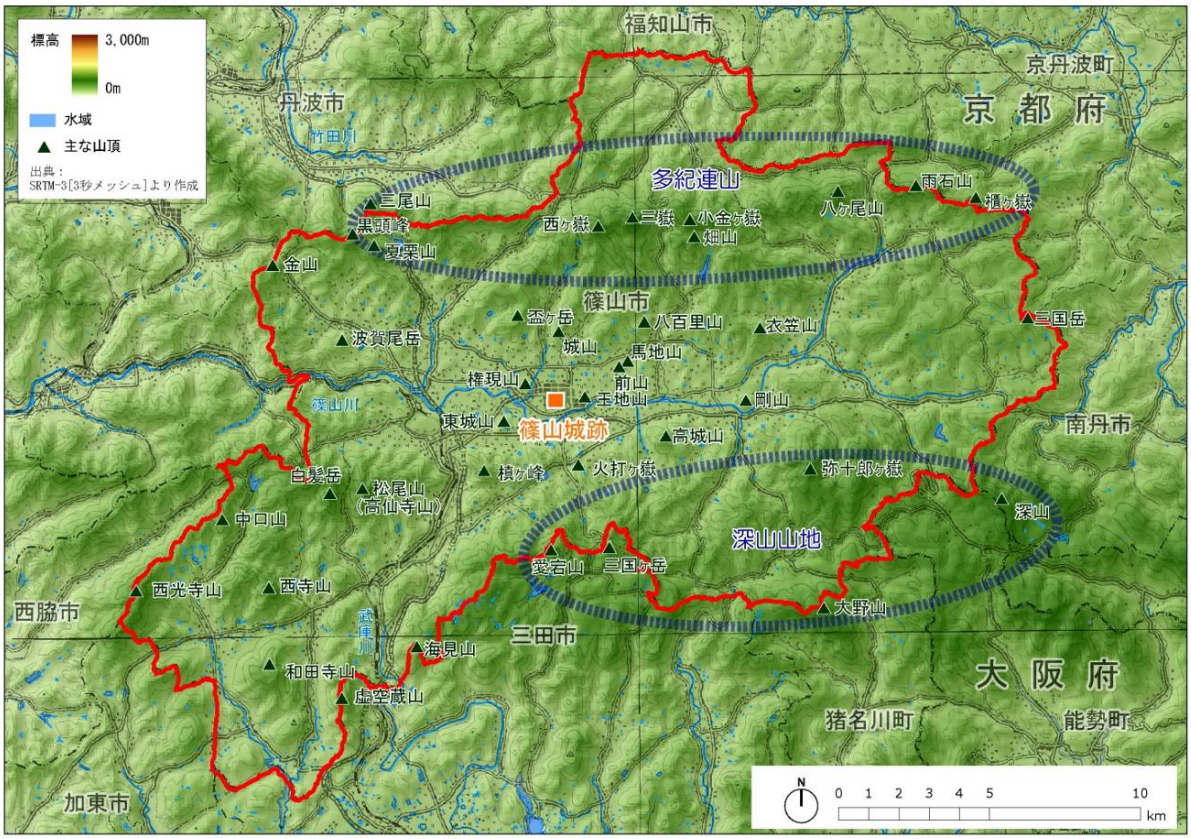


図 2-3　地勢図

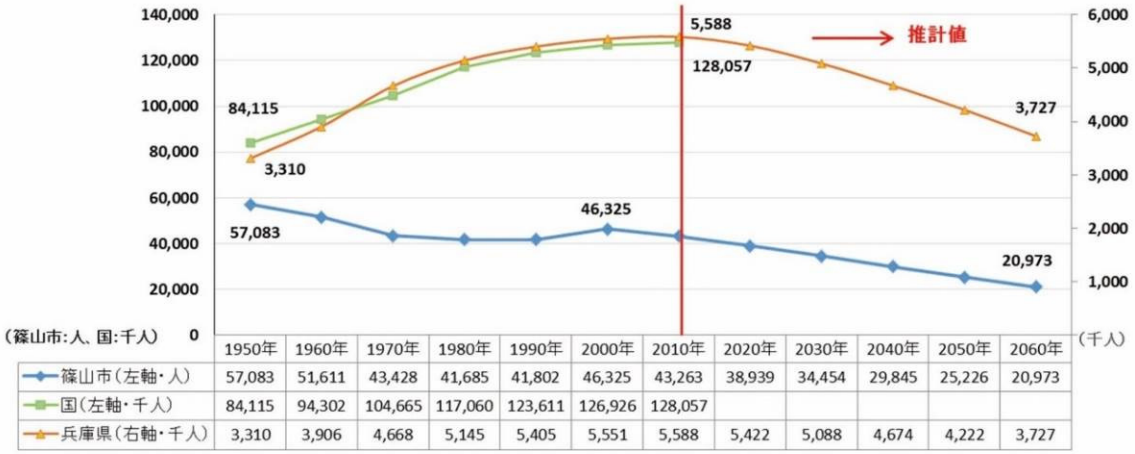
２．社会環境

（1）人口

篠山市の人口は、平成 29 年 3 月時点で 42,245 人であった。これは、昭和 51 年度の人口指数を 100 とすると、98.1 となる。

総人口の推移は、1950 年から 1970 年の高度経済成長期にかけて、都市部への人口流出により総人口が減少し、1970 年から 1990 年にかけては、ほぼ横ばいで推移している。1991 年のバブル崩壊後から 2000 年にかけては、転入者が多く、総人口は微増傾向にあった。しかし、2000 年を頭打ちに 2010 年にかけて総人口は減少しており、国立社会保障・人口問題研究所によれば、今後も人口は減少し続け、2060 年には 2015 年より 51%減少すると推計されている。

図 2-4 は、総人口の推移と将来推計のグラフである。



	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
篠山市（左軸・人）	57,083	51,611	43,428	41,685	41,802	46,325	43,263	38,939	34,454	29,845	25,226	20,973
国（左軸・千人）	84,115	94,302	104,665	117,060	123,611	126,926	128,057					
兵庫県（右軸・千人）	3,310	3,906	4,668	5,145	5,405	5,551	5,588	5,422	5,088	4,674	4,222	3,727

【出典】2010 年までは H22 国勢調査、2020 年以降は内閣府提供データ（国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）を利用

図 2-4　総人口の推移と将来推計

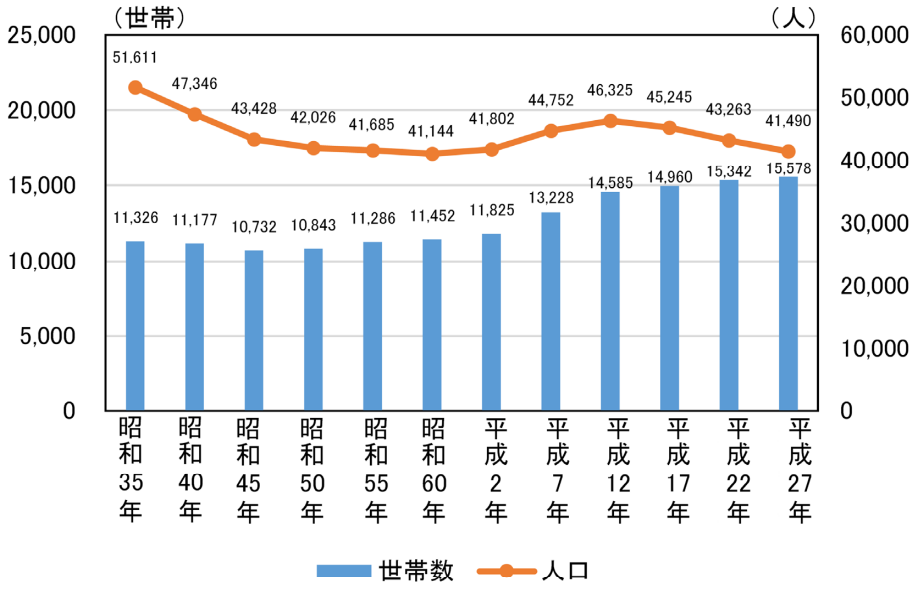


図 2-5　篠山市の人口と世帯数の推移

（2）交通

史跡篠山城跡へのアクセスは、公共交通機関を利用した場合、ＪＲ福知山線・篠山口駅下車、篠山口駅から篠山城下町まで神姫グリーンバスで「二階町」下車となる。バスの所要時間は約 15 分で、日中は約 30 分間隔で運行されている。また篠山口駅東口と城跡に近い篠山観光案内所で自転車の貸し出しを行っている。

自動車を利用した場合、京都から、国道 9 号線～京都縦貫自動車道亀岡 IC～国道 372 号線を経由し、篠山市街を経て約 60 分かかる。大阪からは、中国自動車道吉川 JCT ～ 舞鶴若狭自動車道丹南篠山口 IC を経由し、篠山市街を経て約 60 分。神戸・三宮からは、中国自動車道神戸三田 IC 吉川 JCT ～舞鶴若狭自動車道丹南篠山口 IC を経由し、篠山市街を経て約 90 分の道程となる。

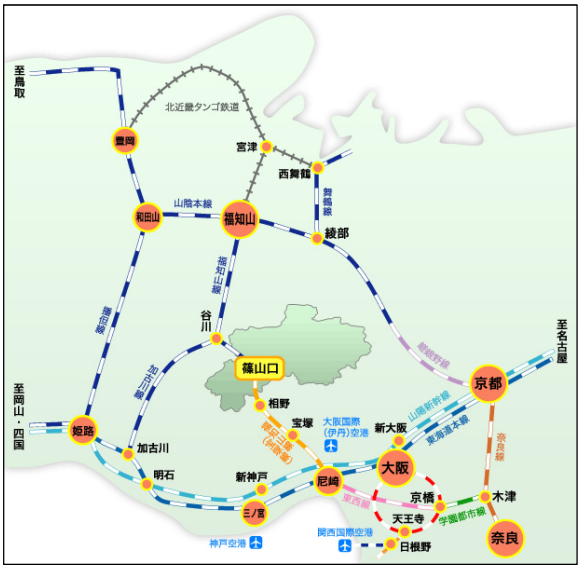


図 2-6　電車でのアクセス

図 2-7　車でのアクセス

（3）産業

篠山市の産業は“丹波篠山”のブランドに示されるように、「丹波篠山黒豆」、「丹波篠山山の芋」、「丹波栗」、「猪肉(ぼたん鍋)」などの地域特産物を産み出す農林業が基幹産業となっている。一方、昭和 40 年代以降の積極的な企業誘致により、市域には大小様々な工場が立地し、酒造、薬品、金属等の製造業は、本市の中核的な産業として定着している。

「日本六古窯」の一つ丹波焼などの伝統的地場産業は、観光・レクリエーション資源としても認知されている。また近世以来、商業集積地として発展した篠山城下の商店街は、店舗が集積する商業地であるとともに、行政・文化・業務・観光等の機能を併せ持った中心市街地を形成している。しかし近年は、ＪＲ篠山口駅や丹南篠山口インターチェンジ周辺、主要幹線道路沿いにおいて商業施設が多くなり、篠山市における商業は様変わりしつつある。

篠山地区では、篠山城築城に伴い商家が軒を連ねる商業の町が形成され、廃藩置県後は歩兵第 70 連隊の設置により商店街は活況を帯びていた。戦時中から戦後にかけて一時活気を失っていたが、昭和 25 年(1950)頃から経済復興が進み、昭和 30～40 年代にかけての高度経済成長期を迎えると、再び中心市街地として活気を取り戻した。現在も多くの商店があり、中には享保 19 年(1734)創業の歴史のある商店も見られる。

また篠山地区は、史跡篠山城跡や重要伝統的建造物群保存地区に選定された歴史的町並みをはじめ

とした数多くの歴史観光資源や、篠山市立青山歴史村や篠山市立歴史美術館、丹波古陶館などの博物館や美術館も立地している。またデカンショ祭りや丹波篠山さくらまつりなどの催しも多く、篠山市の観光産業の中心地となっている。

（4）観光

平成 24 年度から平成 28 年度の、兵庫県観光動態調査データによると、宿泊動態は日帰り客が 90%以上を占め、宿泊客は 5%前後で、平成 9 年(1997)の JR 福知山線における篠山口駅までの複線化以降、宿泊客は大幅に減少している。

観光目的別では、「デカンショ祭り」や「丹波篠山味まつり」「丹波焼陶器まつり」「大国寺と丹波茶まつり」「にしきシャクナゲまつり」といった篠山市の風土を活かしたまつりやイベントを目的とする観光客が多い。なお、大書院や篠山伝統的建造物群保存地区内の丹波古陶館、能楽資料館、安間家資料館などの歴史施設への来訪者数は毎年 10 万人前後であるが、そのうち半数が篠山城大書院を訪問している。

写真 2-1　デカンショ祭

毎年 8 月 15･16 日に篠山城跡で開催されるデカンショ祭は、盆踊りから受け継いだ親しみやすさ、踊りの輪に気軽に誰でも飛び込める気安さがある。地元の高校やデカンショ節保存会では、デカンショバンドやジュニア競演会などに力を入れており、祭りは日頃の成果を発表する場であるとともに、あらゆる世代が心待ちにする「ハレ」の場となっている。

デカンショ祭の他には、丹波篠山さくらまつり、青山神社の祭礼、篠山ＡＢＣマラソンなどが篠山城跡で開催されている。

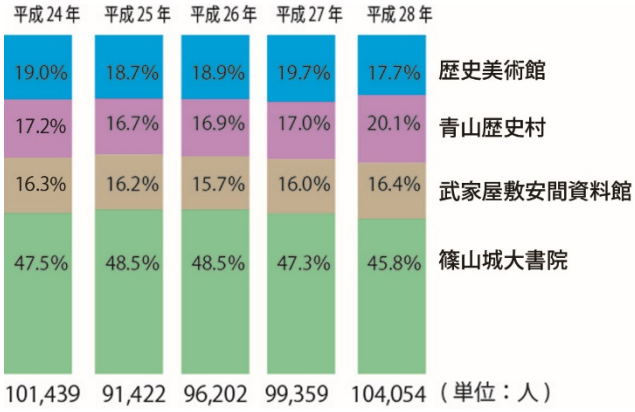


表 2-1　歴史施設への来訪者数

単位（千人）

年度	計	観光形態		観光目的					新規施設観光客		
		日帰り	宿泊	まつり	施設見学	温泉	ゴルフ	その他	グリーン・ツーリズム	エコ・ツーリズム	産業博物館
平成 24 年度	2,442	2,308	134	413	255	269	272	596	551	30	55
平成 25 年度	2,317	2,197	120	350	282	259	258	591	504	27	45
平成 26 年度	2,306	2,186	120	306	298	222	266	580	550	26	58
平成 27 年度	2,345	2,225	120	332	327	162	268	550	640	29	37
平成 28 年度	2,402	2,278	124	375	310	167	259	662	572	25	32

表 2-2　市内の観光客の推移